地域づくり提案書

みんなで創る海とみどりのシンフォニー

魅力あふれる南東京湾

東京湾アクアラインの千葉県側の着岸地から富津岬に至る東京湾岸の南部エリアは、東京湾本来の魅力にあふれる地域です。

今、このエリアは、ステップアップの好機を迎えています。

産学官民が広域的に連携して、地域づくりを戦略的に進めましょう。

内容

- なぜ今南東京湾。
- 南東京湾に出かけてみよう。
- 南東京湾エリアをみんなで創ろう。

なぜ今、南東京湾

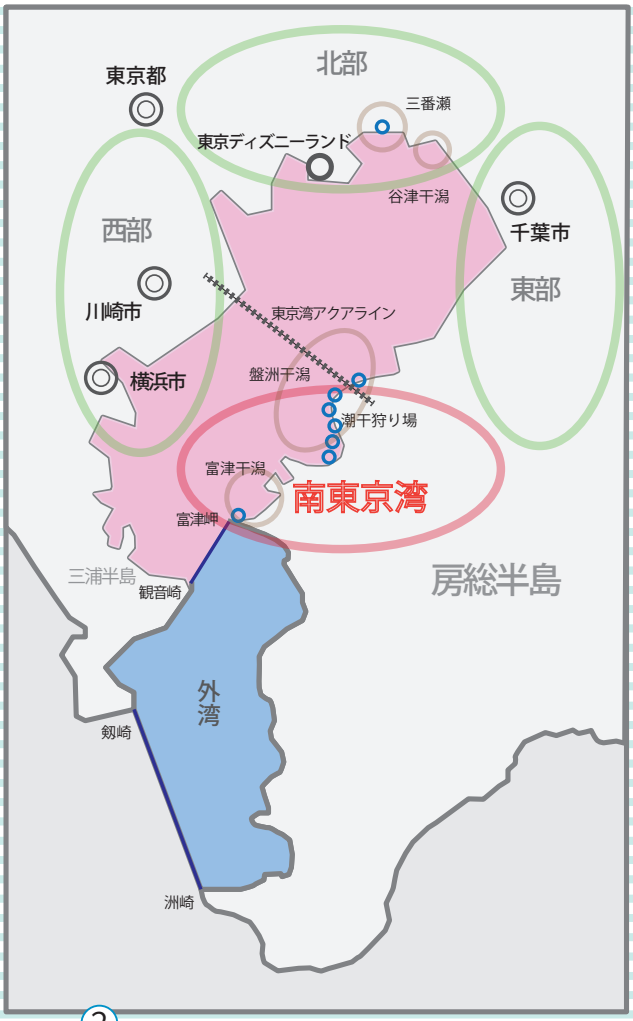
南東京湾とは

東京湾のまわりを見渡してみましょう。東京湾岸には、人口・産業が集積し、日本の産業・文化の中心地域となっています。

その中で、東京湾アクアラインの着岸地から富津岬に至る東京湾岸の南部エリアは、干潟や里山の自然とそれを活用した産業が営まれている「東京湾本来の自然と文化」が息づくところです。

この場所を「南東京湾」と呼んでみましょう。

※狭義の東京湾は、千葉県の富津岬と神奈川県の三浦半島の観音崎を結んだ内側。広義には浦賀水道を含む三浦半島の剱崎と房総半島の洲崎を結んだ線より北側の海域を指す。



南東京湾の魅力　～東京湾の原風景～

南東京湾エリアは、東京湾岸では最も自然が豊かなところで、四季折々、自然の中で、人々が楽しみ、憩うことができる場所がたくさんあり、エリア全体が公園のようです。

○豊かな自然

自然海岸、盤洲干潟、富津干潟、上総丘陵の里山、小糸川、小櫃川など

○自然を活かした施設

富津公園、君津緩衝緑地、富津市民ふれあい公園、海水浴場、潮干狩り海岸など

○海洋性・臨海型の産業施設

木更津港、富津漁港、金田漁港、臨海型工場など

誰もが住みたいと思う南東京湾

東京湾岸地域では、東京湾アクアラインや関連道路の整備等の効果により、人口・産業の再配置や高度化が着実に進展しています。

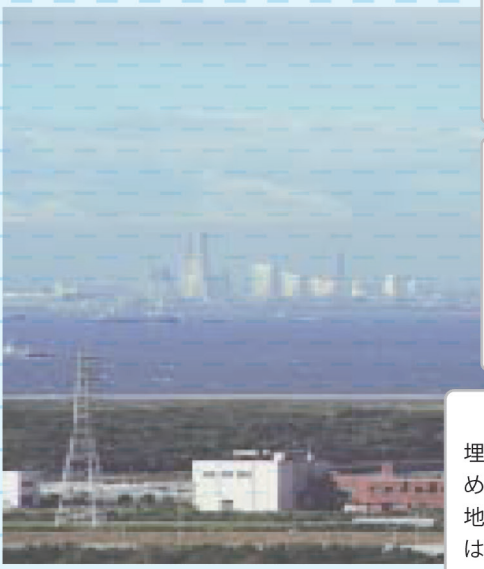
特に、南東京湾エリアでは、住民の利便性の向上と定住促進のため、地域資源を活かして地域の魅力をさらに高めていくことが重要です。

東京湾アクアラインの整備効果

東京湾アクアラインは、東京湾岸道路や首都圏中央連絡自動車道などと一体となって東京圏の環状道路を構成し、交通混雑緩和と産業活動の向上などに機能するものです。

近年は、アクアライン経由の高速バス路線拡充などにより、京浜方面への通勤等がさらに便利になったため、君津地域へ移住する方々が増加しました。

南東京湾里海・里山ドライブコース



盤州干潟

小櫃川河口から東京湾に広がる、最大で 1400ha に及ぶ広大な干潟。干潟特有の高い生物生産能力を背景に多様な生物が生息する。

木更津港内港地区

歩道橋としては日本一の高い赤橋（中の島大橋）があり、海やが一望でる。港周辺には複数の海公園があり、中の島公園の西には、木更津海岸が広がり、潮狩りの名所となっている。

君津緩衝緑地

埋立地の環境改善や公害防止のため、約 2 km にわたる緑地が緩衝緑地として指定されている。総面積は、約 37ha で、うち 21ha がキャンプ場や野球場などのある都市公園として開設されている。

人見神社

君津、富津の海岸地域の鎮守の氏神として崇拝されて来た神社。頂上の高台からは市街地一帯が見渡せる。

富津みなと公園

広大な海と豊かな緑に囲まれた自然溢れる公園。子供達が楽しく遊べる遊具広場や芝生広場など多目的に利用できる。

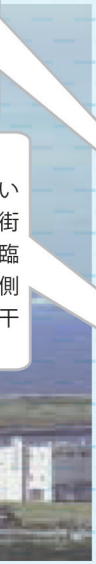
富津公園

東京湾に突き出した富津岬全体を公園とした広域公園。四季折々に、スポーツ、散策を楽しむなど自由な選択ができる。

富津岬の最先端には、明治百年記念展望塔があり、海に囲まれ、君津から南の東京湾沿岸域や、神奈川県の対岸を一望できる。また、公園入り口近くには、松の樹海に囲まれた中之島展望塔がある。

富津市民ふれあい公園

埋立地区と市街地を隔てる緑地として、約 4 km にわたり約 53ha の緩衝緑地が都市公園として整備されている。



い
街
臨
側
干

海ほたる

東京湾アクアライン

木更津金田 IC

袖ケ浦駅

袖ケ浦 IC

巌根駅

木更津駅

木更津北 IC

木更津南 IC

君津駅

君津 IC

浦駅

おすすめコース

ビューポイント

飲食店集積地区

公的緑地等

三舟山

里山の四季を楽しめ、ハイキングに最適。山頂付近は陣地の跡地で、展望台からの眺望は東京湾も望める。

郡ダム

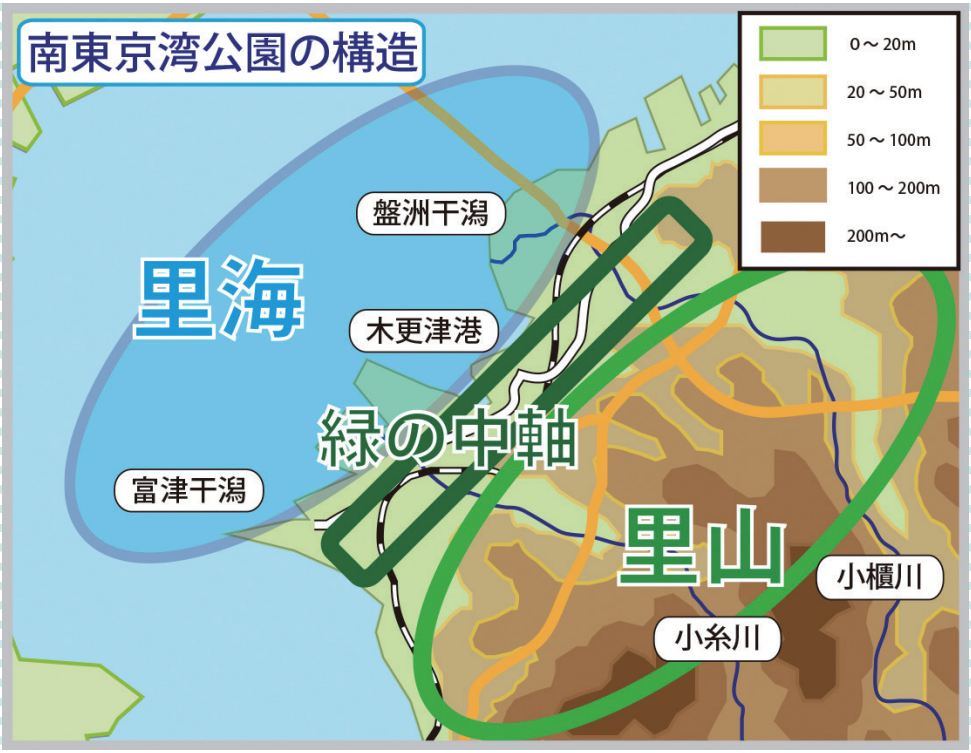
緑豊かな里山に囲まれたダム湖。周辺には広場とダム湖を一周する遊歩道がある。

南東京湾エリアをみんなで創っていこう

地域づくりの戦略

南東京湾公園構想の展開

産学官民が連携・協力して、南東京湾岸地域の自然や文化的な地域資源を広域的に活用し、地域全体が公園として機能するエリアを形成する。



南東京湾岸の未来イメージ

南東京湾エリアは、里山と里海からなる多様な自然環境と文化をもつ。これを中軸となる地域の緑が繋ぎ、市民や東京湾岸住民が憩い楽しみ、生活をさらに豊かにする場としていく。

○南東京湾岸の自然を生かした健康づくりとスポーツの総合センター

○東京湾の様々な文化を楽み、創造していく場

展開手法

南東京湾だからできるエリアマネージメント

本地域の地域資源を適切に活用し、効果的に情報発信するため、本地域の「資源の特性」※を踏まえた最小の労力で最大の効果を上げる地域経営のシステムを構築する。

※「資源の特性」 本地域は、大規模で、かつ公的資源が多いので、関係者間での連携がとりやすく、効率的に活用しやすい。

連携事業のイメージ

地域の自然や既存資源を広域的に活用して地域特性を高め、首都圏全体にアピールするための共同事業の展開

- ○ スポーツと東京湾の文化をターゲットとした新たな魅力の開発・導入
- ○ 南東京湾のイメージ形成のための戦略的な情報発信
- ○ スポーツ・文化面での多様なイベントの共同誘致・受け入れ
- ○ 南東京湾エリアへの移住・定住政策の促進
- ○ 長期的な視点に立った南東京湾の景観形成事業

事業の進め方

トリプル・ツー（津）の連携

木更津、君津、富津の関係者（資源管理者）による共同の可能性の検討が重要。

- ○ 多様な連携協力の場づくり
- ○ 本エリアの将来ビジョンの共有
- ○ いまできる事業の実施を通したビジョンの具体化

ねらい・期待される効果

- ○ 広域連携による市民生活の利便性の向上
- ○ 定住促進と産業の活性化
- ○ 東京湾岸での機能の再配置の促進

千葉縣觀光物産地圖

鴨川市教育委員会所蔵

上の図は、昭和 26 年の千葉県観光物産地図の一部です。

東京湾の千葉側では潮干狩り、海水浴、簾立が行われ、海苔や貝が物産となっています。60 年余りの時が経過し、このような東京湾での生活文化を楽しめる場所は、今では南東京湾のみとなっています。

平成 28 年 8 月
編集 / 発行　京葉臨海コンビナート地域緑地研究会
（事務局　NPO 法人千葉自然学校）